

活動レポート

道東技術士会

文責：道東技術士会幹事 上野博司

第64回総会・講演会を開催

はじめに

道東技術士会では例年、5月または6月に釧路、12月に帯広で総会を開催しています。

今回の活動レポートは、12月に開催した第64回総会と、講演会について報告いたします。

1. 第64回総会

日時：平成23年12月2日 午後6時

場所：北海道ホテル

出席者：24名(技術士21名、技術士補3名)

平成23年度第2回総会を帯広において開催しました。

工藤代表幹事が所用で欠席のため、紅葉副代表幹事が挨拶を行いました。

挨拶では、3月に発生した東日本大震災やTPP、十勝では9月の大雨による河川災害にふれ、このような自然災害に対し、我々技術士を含め技術者がどのように世の中に貢献していくかを考える必要があります。

また、河川災害の出水後の河道は、計算ではあわせない美しい線形となっており、人間は自然にはかなわないことを痛感するとともに、今後とも講演会などで勉強していきたいと述べました。

2. 講演会

第64回総会にあわせ、CPD(継続教育)として講演会を行いました。

演題：野生動物と共に生きる方法

—特に道路と動物の関係について—

講師：帯広畜産大学 教授 柳川 久 氏

講師の柳川氏は、畜産生命科学研究部門 野生動物管理学研究室の教授で、野生動物の保護と管理を研究しておられ、今回は、野生動物の交通事故の実

態と防止策、道路による生息地分断の実態と解消策などについて講演をしていただきました。



講師の柳川教授

講演要旨

野生動物管理学は、人間と野生動物がより良い関係で共に生きていくための学問です。

かつては、開発か自然保護かの対立する図式となっていましたが、今は、人間と自然がうまく折り合いをつけて、生態系を損なうことなく永続的に時間を共有することが大切と考え、保護だけでなく管理、駆除、防除について研究しています。

1) アカガエル

帯広畜産大学には交通事故で傷ついた動物が年間200匹以上持ち込まれますが、その8割は死んでしまいます。事故を減らすためには原因をつきとめ、その原因を減らす必要があります。

1996年～1997年の2年間について、道路上にあった動物の死骸を集めたところ以下の結果でした。

- 1. エゾアカガエル : 1,044匹
- 2. オオアシトカチネズミ : 152匹

3. エゾリス : 94 匹

上記のうち、アカガエルは、ほとんどが国道273号の黒石平で拾われたもので、この箇所では道路の北側が生息地(越冬地)で南側が池であることからカエルは、春と秋に道路を渡って移動します。

春先の移動では産卵ためメスの上にオスが乗っており、歩道縁石の18cmの段差が乗り越えられずに事故に遭うケースが多いものと考え、開発局と協議をした結果、縁石部に3箇所スロープを設置することとなりました。スロープ設置後の観察では事故件数が200匹まで減少しており、大きな効果があったものと思います。



エゾアカガエルのペアと歩道に設置したスロープ

2) エゾリス

エゾリスが道路を安全に渡れるよう、道路上にブリッジを設置しました。より良いブリッジの設計のために、材質などを決定する必要から、いろいろな材質について、実際にエゾリスに渡らせて、しっぽの角度や足の運び方を観察しました。

3) モモンガ

帯広から広尾方向に建設が進む帯広広尾自動車道は、世界でも例のないほど、動物の移動経路に配慮して建設された道路のひとつです。

モモンガの移動経路となる防風林を分断する箇所には、滑空比を想定したポールの設置やボックスカルバートの設置などを提案しました。

完成後はカメラによる自動撮影でモニタリングを行い、施設の使用状況を確認するとともに、材料の耐久性や費用について検討し、次の施設へ応用しています。

これまで23年間研究をしてきましたが、研究



モモンガ滑空用支柱とカルバート

フィールドは市街地から郊外地へ移動し、対象動物もカエル、リスなどの小型のものからシカや熊など大きなものも加わってきています。そのなかで、道路を横断させて良いものダメなものがあり、道路をブロックを使って生活空間や時間空間を使い分け、野生動物と人間の共生を考えていく必要があります。

3. 懇親会

講演会後は、当会幹事の明石技術士の乾杯の音頭で懇親会に入りました。

大変盛況のうちに終了した講演会であったことから、懇親会でも引き続き先生へ質問をされる方が多く見受けられました。

懇親会は、大内技術士の締めで終了し、解散しました。

おわりに

今回の講演会では、質疑応答が20分間に及ぶなど大変活発だったことから、自然環境と社会資本の整備が地域にとって重要な課題であると共に、皆さんにとって興味ある事柄であることを改めて認識しました。

今後とも、講演会や現場見学会などを開催していきたいと考えていますので、ご協力をよろしくお願いします。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍をお祈りし、道東技術士会の報告とさせていただきます。